

平成 30 年度第 3 回「三重県 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会
関連事業推進本部」会議概要

日 時：平成 31 年 3 月 19 日（火）9:10～9:25

場 所：県庁 3F プレゼンテーションルーム

- 1 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会にかかる最近の主な動き
事務局から、資料 1 により説明
- 2 平成 30 年度取組状況、平成 31 年度取組予定
部局長から資料 1、資料 2、資料 3 により取組概要を説明

別所国体・全国障害者スポーツ大会局次長

・（資料 1）9 月には、本県でフラッグツアー、フラッグツアー関連事業を実施した。

・9 月 26 日には、カナダアーティスティックスイミング連盟と事前キャンプに関する協定を締結するとともに、12 月にはカナダレスリング協会と事前キャンプに関する協定を締結した。また、これらの事前キャンプに関する協定を踏まえ、カナダを相手国として申請した交流計画が 12 月と 2 月にホストタウンに登録された。

・聖火リレーについては、三重県実行委員会において通過ルートやランナー選定について検討を重ねており、今夏に組織委員会から一括してルートが公表予定と聞いている。

・競技力向上については、有力選手の就職支援に取り組んでおり、リオデジャネイロオリンピックの銀メダリストの原沢選手に来ていただいた。就職支援によって、オリンピック・パラリンピック、またその先の三重とこわか国体・三重とこわか大会につなげていきたい。

・4 月 14 日にカナダアーティスティックスイミングチームが来県し、4 月 27 日から 29 日まで開催のジャパンオープンに向け 1 年前キャンプが始まるので、万全の受け入れ態勢で臨む。

・ボランティアについても国体に向け取り組んでいく。

田中子ども・福祉部長

・(資料2 2①) 平成30年度上半期では、9月に、県営鈴鹿スポーツガーデンで英国パラスイミングチームが合宿を実施し、期間中には三重県選手・指導者による練習風景の見学会や交流会を開催した。

・下半期では、12月に、県営鈴鹿スポーツガーデンにおいて、第35回日本パラ水泳選手権大会が開催された。また2月には、英国パラスイミングチームと東京パラリンピックの事前キャンプ実施に係る協定を締結した。

・子ども・福祉部では引き続き、国内外の大会で活躍する選手の支援や発掘・育成に向けて支援を行うとともに、東京パラリンピック事前キャンプや大規模大会の機会を生かしながら、障がい者スポーツのすそ野の拡大や県民の障がいのある方への理解促進に向けた取り組みを進めていく。

岡村農林水産部長

・(資料1) 県産農林水産品の販売拡大のため、昨年度実施したマーケティング調査の結果や、昨年10月に策定した「三重県農林水産品販売拡大戦略」も踏まえ、取組を実施した。10月には県産食材の販売拡大のため「極上の饗宴・三重県レセプション in 帝国ホテル東京」の開催、1月にはオフィシャルパートナーの味の素と連携し、量販店において、“みえ・「勝ち飯®」”プロジェクトの実施、3月にはオテル・ドゥ・ミクニでのGAP認証取得食材等を使用した三重県フェアを開催している。

・「三重県レセプション」では、首都圏の飲食等関係者約180名、三重県内生産者団体等約50名に参加いただいた。アンケートでは、9割を超える方々から「県産品の認知度や評価が高まった」との回答をいただき、「三重県には多種多様なおいしい食材があることがわかった」などの肯定的な意見をいただいた。県内事業者からは「今後のやりがいにつながった」などの意見をいただいている。

・農福連携に取り組む福祉事業所のGAP認証の取得支援を行い、「シグマファームとういん」など県内の4事業所がGAP認証を取得した。「シグマファームとういん」で生産された三重なばな等は、みえの食国際大使の三國氏のレストラン「オテル・ドゥ・ミクニ」の三重県フェアにおいて使用されている。

・(資料3) これまでの成果を来年度の取組につなげていくことが重要であると考えており、平成31年度は7つの事業に取り組むこととしている。

・具体的には、「三重県レセプション」で構築したネットワーク等を生かし、大会における影響力の高いホテルや大会スポンサーと連携したプロモーションを展開し、県産農林水産物の認知度や評価を向上させる取組、GAPの取組のさらなる拡大を図るため、指導員の育成や地域GAP推進チームによる認証取得支援、農業大学校での学習環境の整備、認知度を高めるPR活動等の取組などに、注力することとしている。

・これらの取組をとおして、県産農林水産物が東京オリンピック・パラリンピックのあらゆる場面で選ばれるよう、オール三重で県産農林水産物の販売拡大を加速させていきたい。

廣田教育長

・平成30年度は、県立農業高校5校でGAP認証取得を進めてきた。グローバルGAPでは2校で米の認証を取得し、家畜・畜産物では2校で全国の高校で初めてJGAPを認証取得した。

・高校生からは「東京オリンピック・パラリンピックで自分たちが作った食材を使ってもらえるよう頑張っていきたい。」などの声も聞かれた。

・平成31年度は、各学校においてGAP認証の継続のための学習を進めるとともに、流通や販売に関する学習を推進していく。

河口観光局長

・(資料2 6③)「#VisitMie」キャンペーンを上半期は9月26日から12月3日まで、下半期は12月4日から3月3日までInstagramを活用した投稿参加型キャンペーンを実施した。フォロワー数が約4,000名増加し、投稿件数も約15,500件増加し、投稿ペースもキャンペーン開始前の約6倍となった。今後、更に「客が客を呼ぶサイクル」を強固なものにし、更なる誘客につなげていきたい。

・(資料2 6④)日本初のIAGTO第1回日本ゴルフツーリズムコンベンションを9月28日から10月3日まで三重を中心に開催し、富裕層やスポーツに関心の高い欧米から、ゴルフと観光を組み合わせ多くの旅行者に来ていただけるよう情報発信に努めている。

・(資料2 8)12月12日、首相官邸へ東京オリンピック・パラリンピックでの日本の文化資産「忍者」の活用、情報発信について要望活動を実施した。

・(資料3 6) 東京オリンピック・パラリンピックを訪日外国人旅行者誘致のチャンスと捉え、「#VisitMie」キャンペーンの展開による情報発信の強化やゴルフツーリズムの推進等に引き続き取り組んでいく。

・5月17日に愛知、岐阜、三重のミシュランガイドの出版が予定されているため、三重の食を楽しむ旅もしっかり情報発信していく。

西城戦略企画部長

・(資料2 7③) 戦略企画部としても、30年度は、関係部局とともに、聖火リレー三重県実行委員会の設置、フラッグツアーフラッグ歓迎イベント等、東京2020オリンピック・パラリンピックの関連イベントについて、知事から定例会見で発表いただくなど情報発信に取り組んだ。

・31年度は、東京2020オリンピック・パラリンピックの前年度ということだけでなく情報発信を強化していきたい。国体の実行委員会でも言及されていたが、今後、東京オリンピック・パラリンピックまでの節目も意識して広報を行っていきたいので引き続き各部局の協力をお願いしたい。

3 知事コメント

・平成31年度は、東京オリンピック・パラリンピックの前年度で重要であり、取組を一層加速化すること。

・伊勢志摩サミットの時にあったように各種取組のスケジュールも日単位でよく考えること。例えば、4月13日の県民の日記念事業、吉田沙保里さんの三重県民栄誉特別功労賞の表彰式の日には、東京パラリンピックの開催まで500日を迎える。日単位でスケジュールを考え、取組のメリハリをつけてやってほしい。既に戦略企画部で考えているようであるが、とりまとめも行うこと。

以 上